2021年四季カレンダー　主題作品コメント

1月、川井靖元「厳冬の利尻富士」
冬の利尻島は過酷な気象環境で晴れる日が少ない。
島の南端にある沼浦のポン山に登ると、
雲が切れて晴上がり、利尻富士が正面にその雄姿を現した。

2月、安田　郁子「浅間山静寂」
浅間山は群馬と長野の県境に位置し、今も噴煙を上げる活火山である。浅間外輪山の黒斑山に登ると、
寸光を受けた浅間山が、静かに雄大な姿を見せていた。

3月、名取　洋　「火口壁より北八ッを望む」
南八ヶ岳最北端に位置する硫黄岳。大きく口を開いた爆裂火口が印象的だ。北に目をやると、
なだらかな北八ヶ岳、そして遠く北アルプスの峰々も望める。

4月、岡　孝雄　「新緑の錫杖岳」
雪深い奥飛騨にある錫杖岳に、遅い新緑の季節がやってきた。俊立する岩壁は一層存在感を増し、
芽吹き色の清楚さと共に、懐かしい青春時代を想い起こさせる。

5月、加藤　良昭「富士山を彩る」
清々しい富士を背にして、オンタデの花が美しく色着き、木々の緑も鮮やかさを増して夏本番を迎える。
雲間からの光の流れと共に、富士山の彩りを撮った。

6月、小堀　彰「霧立つ涸沢カール」
梅雨明け間近の涸沢カール。朝は綺麗なご来光で岩峰がモルゲンロートに輝いていたが、
今は谷間から湧き上がる霧が乱舞して、幻想的なカールになった。

7月、青山　陽子　「遥かなる尾瀬」
初夏の清々しさを求めて尾瀬へ行くと、満開のコバイケイソウが迎えてくれた。
咲き始めでお花が綺麗だ。いつ訪れても何かを見せてくれる尾瀬が、私は大好きだ。

8月、松原　貴代司「冷気にいやされて」
暑い思いをした鳥海山の下山路から、涼気に満ちた元滝に着くと、心身共にいやされた。
豊富な伏流水が苔むした沢に流れ落ちる様は、心に響いた。

9月、大石　高志　「輝きの中の槍ヶ岳と鏡池」
秋の早朝、槍ヶ岳・穂高連峰の稜線から太陽の輝きが現れた。紅葉した樹木に日が当たり始めるとともに、
静寂な鏡池にも輝きが映し出されていた。

10月、金　起煥　「錦秋の天狗岳」
日の出からガスに覆われていた天狗岳が、２時間経ってようやく顔を出した。
北壁を埋め尽くしていたガスは上がって行き、天狗岳は彩りを増していった。

11月、川上　詔夫　「紅葉の絨毯」
本州で紅葉が最も美しいと言われる栗駒山。最盛期の好天を逃すまいと、平日に出かけた。
見下ろした南側斜面は、鮮やかな絨毯を敷きつめたようだった。

12月、三間　千恵　「鹿島槍ヶ岳の朝」
遠見尾根にテントを張り、吹雪に耐えた翌朝は快晴になった。朝焼けを少し過ぎてからの光は、
威風堂々とした純白の覇者の姿を映し出した。